

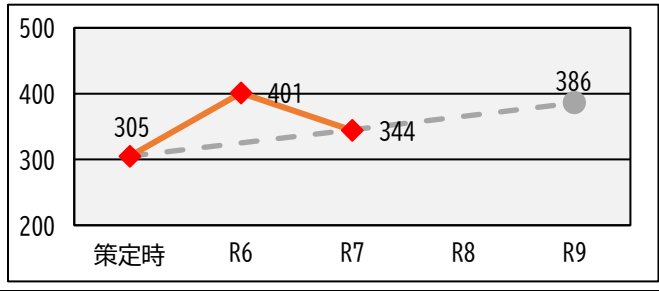
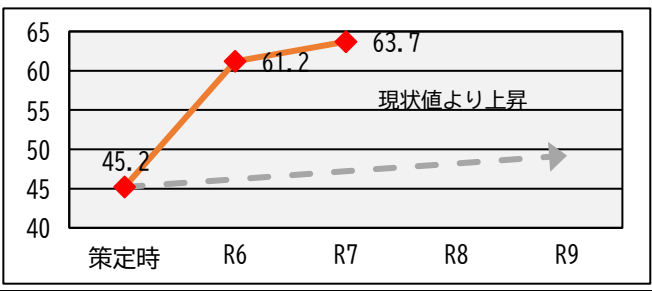
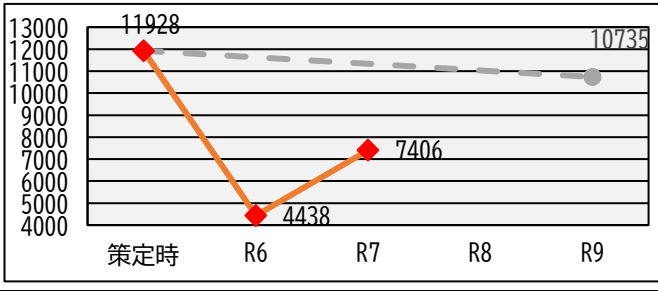
施策名10 生活環境				総合計画審議会からの施策目標の実現に向けた講評等	
R9年度末にめざす状態（施策目標）【P】	まちの生活環境が安全・快適・清潔に保たれている	進捗度	B		

【進捗度】A：４年後にめざす状態をすでに実現している、B：４年後にめざす状態の実現に向けて大変順調に進んでいる、C：４年後にめざす状態の実現に向けて概ね順調に進んでいる、D：４年後にめざす状態の実現には努力が必要である、E：４年後にめざす状態の実現には相当努力が必要である

(1)環境美化・公害対策の推進		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
・たばこのポイ捨てに対し定期的に啓発活動を実施することにより、生活環境の快適性の向上に寄与した。 ・条例に基づく空き地の管理や清掃活動を通じた環境美化推進、大気、水質、騒音、振動調査の計画実施、及び騒音や振動に関する特定施設や建設作業に対する届出の受理、指導によって低騒音重機の仕様確認を行った結果、公害等の苦情件数は減少しており、良好な生活環境を維持できた。	No.1 市内の環境状況の監視及び公害対策の実施	・たばこのポイ捨てに対する巡回や指導 32回 ・公害相談件数 3件
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
・現在、各種測定結果に大きな変化は見られず、まちの生活環境は保全されており、現状の課題はない。	・快適な住環境の保全に寄与するため、今後も各種環境測定(大気質測定調査、水質測定調査、騒音・振動測定調査、学研高山地区環境保全に係る水質調査)を実施するとともに、騒音・振動に係る特定施設・特定建設作業の届出受理及び指導を継続する。	

(2)防犯・消費者保護対策の推進		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
・市HPや広報紙、SNS等を活用して特殊詐欺防止装置の購入費用補助の普及促進を図ったことにより、令和7年の市内特殊詐欺被害を20件（前年比▲17件）に留められた。 ・生駒市消費者安全確保地域協議会（見守りネットワーク）で消費者被害に関する情報共有を行い、構成機関の皆様が相談先として認識するようになったことで、同ネットワークを活用した相談が増加し、地域全体での見守り活動が推進された。	No.2 特殊詐欺防止装置の普及促進	特殊詐欺防止装置の購入費用補助（市内65歳以上）：107件交付
	No.6 消費者トラブルの未然防止	見守りネットワークを活用した消費者トラブル等相談件数 25件(昨年度14件)
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
・特殊詐欺被害を更に抑えるには、市HPや広報紙、SNS等では情報が行き届かない高齢者に直接声をかけ、被害防止に向けた助言や注意喚起を図っていく必要があるものの、行政や警察だけで対応するには限界がある。 ・現役世代は見守りネットワークを活用することができず、地域によって見守りネットワークの活用に差がある。デジタルツールを活用した情報共有についても十分に浸透していない。	・民生児童委員や地域安全推進委員、金融機関、市内事業者等と連携して「ITB（Ikoma Tokushusagi Bokumetsu team）」を立ち上げ、地域全体での見守り体制を強化する。 ・LINEWORKS等のデジタルツールの活用促進を図り、迅速で双方向の情報共有体制を確立する。 ・現役世代の被害も多いSNS型投資・ロマンス詐欺について、ターゲティング広告を実施する。	

(3)交通安全対策の推進		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
・生駒駅周辺における全ての市営駐輪場を機械化し、24時間営業化やキャッシュレス決済への対応を進めた。こうした取組により、市営駐輪場の利便性が向上した結果、令和7年度の放置自転車の撤去台数は5台（前年比▲9台）となり、駅周辺の交通環境改善に寄与した。 ・急ブレーキが多発する箇所を特定し、視認性の高い路面標示を設置した。また、交通事故発生時に歩行者への危険性が高い箇所にも路面標示を設けることで、道路の安全性を確保した。 ・生活道路については、令和7年度予定していた安全対策工事を完了し、歩行者の安全対策が向上した。	No.7 自転車駐車場の運営形態見直し	生駒駅周辺の市営駐輪場を機械化したことで、24時間営業・キャッシュレス決済への対応を実施した。
	No.8 民間企業の交通データを生かした取組	民間事業者提供のデータを基に、急ブレーキ発生率の高い2箇所に交通安全対策を実施した。
	No.9 生活道路安全対策事業	安全対策工事箇所 26箇所
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
・市営駐輪場については、無人管理に伴う防犯対策や施設の老朽化等への対応が今後の課題となる。 ・物価や人件費等の上昇により、路面標示や防護柵の設置などの安全対策について、当初想定していた箇所数の整備に時間を要している。	・市営駐輪場については、危険箇所や老朽箇所を精査したうえで、防犯カメラの設置や施設の修繕・改修を検討・実施し、利用者がより安全且つ安心して利用できる施設を目指していく。 ・路面標示が未設置の危険箇所は物価上昇を踏まえて対策箇所を精査し、優先度の高い箇所から対応する。 ・生活道路については、今後も主要幹線道路や通学路合同点検の結果を踏まえ優先順位を精査し、危険性の高い箇所から優先的に整備を進め、市民の安全確保に努める。	

《参考》施策の進捗状況を測る代表的な指標【C】		
I 刑法犯罪の認知件数 (件/年)	II 快適な生活環境が保たれていると 感じている市民の割合(%)	III 不法投棄回収量 (kg)
		

《参考》めざす状態に対する市民実感度 「そう思う」＋「どちらかというと思う」と回答した人の割合	
【R7.12月】 61.9%	【R6.8月】 58.1%